

# ワークライフバランス、どう実現？

## 例など紹介 長岡塗装店の成功 出雲で講演会



パネルディスカッション=25日、出雲商工会議所

## 「経営者の決意必要」

ければ会社はダメになる」というベテラン職員の言葉をきっかけに、〇二年から育児や介護がしやすい勤務時間体制や休暇制度を導入。その後も次第に充実させてきた。

シ制作などの営業・受注し、四十数名の会員に仕事を仲介)、園山設備の園山博俊常務(社員十一人、仕事柄、長時間労働などの悩みがある)の三人をパネラーとして展開した。

ワークライフバランス(仕事と生活の調和)を考える講演会が二十五日、出雲商工会議所(出雲市大津町)であった。出雲市・男女共同参画まちづくりネットワーク会議の主催。

その結果、売り上げの増加や、平均年齢四十歳代から十歳若返ってきたという現状を報告し、▽社員が休む事を肯定的に考える▽自社の現状を景気や国の責任にしない▽結果がでるまでは長い時間がかかるので焦らない―ことなどを説いた。

各パネラーは、それぞれの業態による悩みを紹介しながら、経営者として何をすべきかなどを話し合った。園山常務は「ワークライフバランスは自分には無縁と思っていたが、今回、何かやっていけるものが見いだせるのではと感じた。古志野さんの話から経営者の決意が必要なのだ」と話していた。

講演者は、松江市で塗装業・防水工事業などを営む株式会社長岡塗装店の古志野純子常務取締役。同社の正社員は二十六人で、十二人が二十から三十歳代と若い。二〇一〇年度の年商は五億三千七百万円。

古志野常務は、「今後、若い職人が育たなければ会社はダメになる」というベテラン職員の言葉をきっかけに、〇二年から育児や介護がしやすい勤務時間体制や休暇制度を導入。その後も次第に充実させてきた。

古志野常務は、「今後、若い職人が育たなければ会社はダメになる」というベテラン職員の言葉をきっかけに、〇二年から育児や介護がしやすい勤務時間体制や休暇制度を導入。その後も次第に充実させてきた。

〇五年に発足し、現在約六十団体・個人が入会。家庭部会、地域部会、職場部会、教育部会の四部会で活動している。